

## 西尾市地域公共交通活性化協議会

平成25年4月17日設置  
フィーダー系統 平成27年6月18日確保維持計画策定

## 1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

## ●地域の特性と背景

平成23年4月の合併により広大となった市域に対して、各種公共交通機関が運行されているものの、平成22年時点での鉄道・バスによる人口カバー率は64%と少なく、公共交通空白地が依然として多く存在している。

また、公共交通機関は佐久島渡船を除き全て赤字路線となっており、特に公共交通の軸となる名鉄西尾・蒲郡線は大幅な赤字路線となっているが、世帯あたりの自家用車保有台数が非常に多く、自家用車に依存したライフスタイルが広く浸透している。

## ●公共交通に関する計画

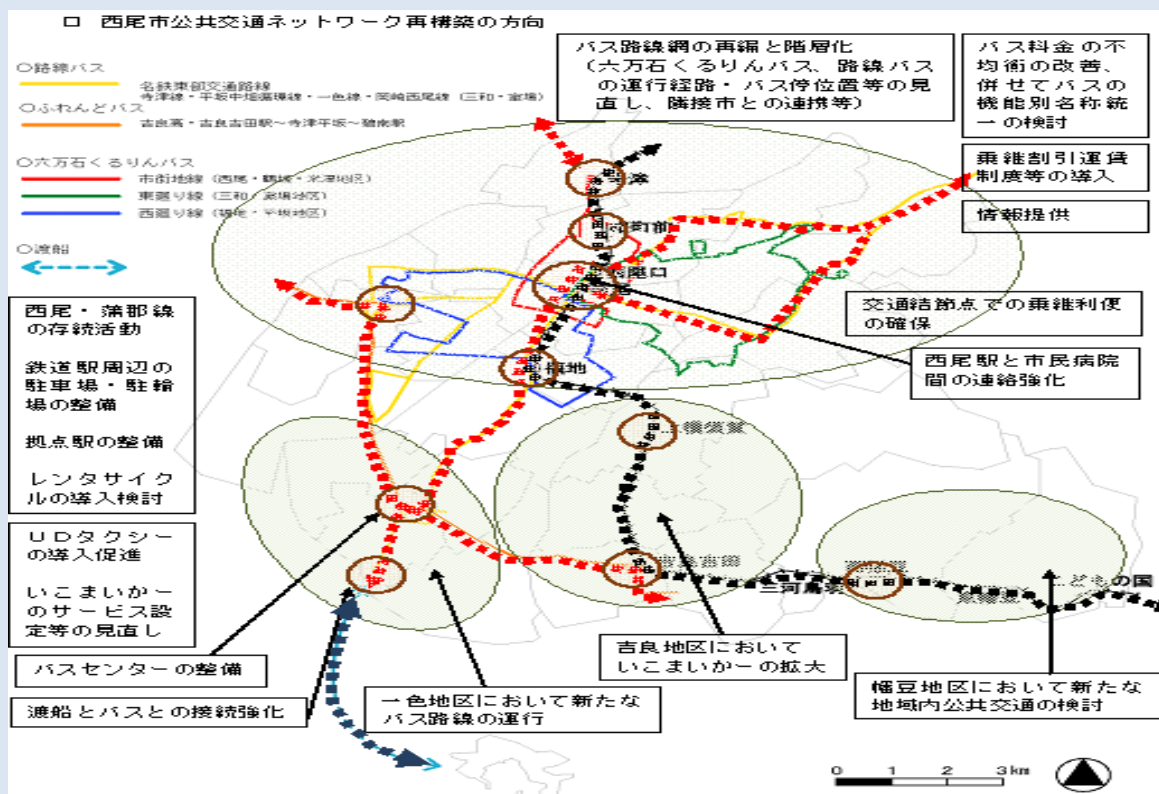
## 『西尾市地域公共交通計画(西尾市地域公共交通網形成計画)』(平成28年度～平成32年度)

## 【地域公共交通体系の将来像】

「日常生活に必要な公共交通が効果的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち」

## 【基本方針】

- ①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします ②市内に人の流れをつくり出します  
③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります ④計画の進捗状況を評価し、定期的に見直します



(西尾市地域公共交通計画47pより抜粋)

## 2. 計画の達成状況の評価に関する事項

### ●各路線の評価

各路線を機能別に幹線・準幹線・支線の階層に分類し、それぞれの階層で現状を基準とした1便当たり平均乗車人員や収支率等の運行維持評価基準を設定し評価を実施する。

また、地区公共交通協議会からの提案に基づく新規路線等については、地区公共交通協議会と連携して評価を実施する。

### ●計画全体の進行管理・評価

計画全体の進行管理として、各事業の進捗状況及び目標達成状況の評価を毎年度実施するとともに、計画期間全体を通してPDCAを実施し、最終年度には計画の見直しを行う。

## 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

### (1)取組み経緯

#### ●西尾市の公共交通の課題

- ①公共交通の骨格を形成する鉄道の維持活性化
- ②バス交通の機能分担の明確化と路線維持
- ③地域の生活行動にあった公共交通ネットワークの整備
- ④公共交通相互及び地域間の連携の強化
- ⑤地域との協働による公共交通利用促進の取組

#### ●協議会の開催状況

	開催日	主な協議内容
H 27 ・ 10 ) H 28 ・ 9	H28.1.14	○地区公共交通協議会の進行状況について ○地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について ○地域公共交通網形成計画の策定について
	H28.3.23	○地区公共交通協議会の進行状況について ○西尾市地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)(案)について ○平成28年度事業計画(案)について
	H28.6.16	○H29年度生活交通確保維持改善計画について ○西尾市地域公共交通計画の改訂について ○一色地区での新規バス路線の運行について

### (2)目標を達成するために行う事業

#### ●補助対象事業の取組み(デマンド型乗合タクシー「いこまいかー」)

・公共交通空白地解消を目的に、予約により自宅から最寄りの駅またはバス停間を送迎するデマンド型乗合タクシー「いこまいかー」を市内全域で運行。

・パンフレットや名刺サイズの利用案内の配布、広報への掲載等により制度を周知。

・六万石くるりんバスとの乗継割引券の発行や、複数人乗車に対するポイントカードの発行による利用促進。

・地域ごとの高齢者や支援者等の少人数の会合に出向き、日常生活における具体的な利用場面などを例示しながらの周知を実施。

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### ●各公共交通機関に対する取組み

鉄道	幹線	名鉄西尾・蒲郡線	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大幅な赤字となっている西尾駅～蒲郡駅間の運行に対し、県市から補助を行い路線を維持</li> <li>○県、西尾・蒲郡両市からなる対策協議会において路線存続に向けた協議を行い、平成32年度までの両市支援による存続を名鉄と合意</li> <li>○団体・親子での利用者に対し運賃を補助</li> <li>○西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団を中心とした各種団体等との連携により利用促進活動を実施</li> <li>○市外からの人の流れを呼び込むため、地域資源の掘り起こしを進める誘客推進部会を設置した。</li> </ul>
		バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○西尾・碧南両市より赤字欠損額の補助を行い、名鉄三河線廃止代替バスを運行</li> <li>○西尾・碧南両市の住民等からなる運行協議会を開催し、運行に関する事項や利用促進策について協議</li> <li>○事業者と西尾・碧南両市の協力により沿線施設を掲載したマップを作成し配布</li> </ul>
バス	準幹線	路線バス [岡崎西尾線、一色線、平坂中畑線、寺津線] (名鉄東部交通)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○路線バスの運行に対し、赤字欠損額の補助を行い路線を維持</li> <li>○通学者に対し安価なスクールバス券を発行し、通常運賃との差額を補助</li> </ul>
		六万石くるりんバス [市街地線、西廻り線、東廻り線] (東伸運輸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内を循環するコミュニティバスを運行</li> <li>○路線間の乗継券や沿線協賛店舗での買い物客への帰りの乗車券の発行、75歳以上の運転免許証自主返納者への優遇、パンフレットの配布等による利用の促進</li> </ul>

#### ●西尾市地域公共交通計画(西尾市地域公共交通網形成計画)に基づく取組み

基本方針	事業	対象期間の取組み
①	タクシーサービスの利便性向上・活性化	○ドア・ツー・ドアのタクシーの特性を活かして、交通手段の確保が困難な高齢者や障害者等の移動支援としてタクシーチケットを配布。
	いこまいかーのサービス設定の見直し	○吉良地区の協議会において、いこまいかーの目的地拡大について改善案がまとまったため、実施に向け事業者との協議を実施中。
②	鉄道の維持・活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福地駅市営駐車場及び市内8駅における駐輪場の管理。</li> <li>○市内各種団体等との連携による利用促進活動を多数実施。</li> <li>○西尾駅の一部駐輪場において、より駅に近い位置へ移設し利便性を向上した。</li> </ul>
	バスセンターの整備	○一色地区にて現在運行している路線バス、ふれんどバスの乗継拠点の整備について、運行事業者や地区住民との協議により検討案をまとめた。
	バス交通の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市西部地域における六万石くるりんバスと路線バスの重複区間解消に向けて、事業者との協議を開始した。</li> <li>○一色地区の協議会において、交通不便地域の解消や日常生活における移動手段確保を目的としたバス路線新設の検討を行い、提案内容がまとまったため、平成29年度の実施に向けた協議調整を行った。</li> </ul>
③	地区公共交通協議会の設立・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに吉良地区・一色地区・東部地区の3地区で協議会の設立があり、各地域内の公共交通見直し案についての協議を行った。</li> <li>○一色地区・吉良地区の協議会では、地区内の公共交通改善案がまとまったため、先行地区とし速やかに実施に向けた手続きを進めることとした。</li> <li>○吉良地区各家庭へのいこまいかーのパンフレット配布や、一色地区での六万石くるりんバス現行路線への試乗会開催等、地区主体の取組みが行われた。</li> </ul>
	まちづくり・観光振興と一体となった施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種団体との協働により、鉄道沿線ウォーキング等のイベントを多数開催。</li> <li>○愛知こどもの国でのイベント開催時に、鉄道での来場者に対しグッズを配布。</li> </ul>

## 4. 具体的取組みに対する評価

### ●補助対象事業の目標達成状況

- ・平成26年度実績から毎年10%の利用者数増加を目標とした。
- ・補助対象系統における利用者数は目標を大きく上回り達成した。
- ・特に、地区協議会を設立し、いこまいかーの改善案を検討している吉良地区においては、地区と連携した周知を行い、前年比約40%増(604人→873人)と利用者が大きく増加した。
- ・特定の方に利用が偏っており、市内全域での利用者数では目標を達成できなかったため、潜在的利用者の掘り起こしが必要である。

エリア名	「いこまいかー」エリア別利用人数累計				計
	H24.10-H25.9	H25.10-H26.9	H26.10-H27.9	H27.10-H28.9	
西尾	0	0	1	0	1
花ノ木	0	0	1	0	1
鶴城	0	0	0	4	4
ハツ面	0	1	0	1	2
西野町	1	0	0	0	1
中畑	0	0	0	0	0
平坂	6	9	52	27	94
矢田	0	0	0	0	0
寺津	0	0	0	0	0
福地南部	6	1	2	0	9
福地北部	88	377	67	26	558
三和	91	125	134	83	433
室場	0	0	0	0	0
米津	28	38	54	28	148
一色西部	3	0	0	0	3
一色南部	1	0	1	0	2
一色中部	1	0	0	0	1
一色東部	1	1	12	26	40
佐久島	93	90	47	38	268
吉田	4	10	1	1	16
白浜	96	169	350	562	1177
荻原	183	196	204	240	823
横須賀	16	36	23	48	123
津平	21	48	31	22	122
東幡豆	56	65	62	46	229
幡豆	4	0	2	3	9
計	699	1166	1044	1155	4064

### ●西尾市地域公共交通計画(西尾市地域公共交通網形成計画)の目標達成状況

基本方針	指標	計画策定時	目標(H32年度)	実績	
①市民の暮らしに必要な最低限の移動ができるようにします	日常生活で移動に不便を感じている市民の割合	39.9%	35%	— (H32年度に調査を行う)	
	西尾市が住みにくい理由における「交通の便が悪い」の割合を減少	76.2%	60%	77.9% (H28)	
②市内に人の流れをつくり出します	公共交通機関の年間利用者数の維持・増加	名鉄西尾・蒲郡線(西尾駅～蒲郡駅)	3,173千人(H26)	3,673千人(対策協議会目標値)	3,333千人(H27)
		六万石くるりんバス	112千人(H26)	198千人(毎年10%ずつ増加)	114千人(H27)
		いこまいかー	1,044人(H27)	1,680人(毎年10%ずつ増加)	1,155人(H28)
		路線バス	443千人(H27)	443千人(維持)	526千人(H28)
		ふれんどバス	270千人(H27)	270千人(維持)	279千人(H28)
		渡船	190千人(H26)	200千人(5%の増加)	239千人(H27)
③みんなで公共交通を守り育てる体制をつくります	地区公共交通協議会が主体となった利用促進活動	未実施	実施済	未実施	
④計画の進捗状況进行评估し、定期的に見直します	地区公共交通協議会との連携でPDCAを実施	未実施	実施済	未実施	

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

- ①いこまいかーについては、補助対象系統における目標は達成したものの、利用者や地区の偏りが見られるため、地域と連携したパンフレット等の配布による周知を行うとともに、引き続き高齢者等の少人数の会合に出向き、それぞれの生活にあった公共交通の利用案内を行い、潜在的利用者の掘り起こしを進めていく。
- ②いこまいかーは鉄道・バスを補完する支線交通であるため、公共交通の根幹である接続先の鉄道やバス自体を維持確保することが重要となるが、鉄道以外の利用促進活動があまり行われていないため、公共交通体系全体の見直しを図りながら、民間路線も含めて一体となった利用促進策を検討していく。
- ③平成29年度の評価に向けて、路線ごとの評価基準の設定や市運行の公共交通でのOD調査・アンケートの実施、民間路線での調査項目の改善等を行い、地域住民や事業者とともに効果的な把握・評価・改善を行える体制を整えていく。



1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果
<p>デマンド型乗合タクシーについては、地域によって利用に偏りがあるものの、今回全体として目標を達成したことは評価しますが、基軸となる交通を補完するものであることから、住民と十分議論のうえPDCAサイクルを実施されることを希望します。</p> <p>今後、「地域公共交通網形成計画」の策定について検討しているとのことですが、隣接市との地域間幹線（鉄道・バス）の見直しや市内コミュニティバスの再編・路線バスとの一体化も含めた議論が展開されるよう期待します。</p>



事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>平成28年6月に公共交通体系全体の見直しを行う西尾市地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）を策定した。</p> <p>今後、同計画に基づき利便性の高い公共交通ネットワークの実現に努めていく。</p>	<p>法定協議会において各路線の運行維持評価基準を定め、利用実態の把握・評価・改善の体制を整える。また、地区協議会からの提案に基づく路線等については、地区協議会と連携してPDCAを実施し、公共交通の維持・活性化を図っていく。</p>

2. アピールポイント

●みんなで地域公共交通を守り育てる意識づくり

- ①地区協議会の設立により、地域にとって本当に必要な公共交通とは何かを地域の住民自らが考える機会が設けられ、バス試乗会や町内会が独自に啓発チラシを作成するなど地区主体の取り組み実施につながった。
- ②本市公共交通の軸となる名鉄西尾・蒲郡線については、大幅な赤字路線となっているが、「乗って残そう」を合言葉に地域住民、事業者、学校等が主体となった利用促進活動が数多く展開されている。



地区協議会での協議



西尾高校による体感ウォーク



名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会



沿線ウォーキングの定期開催

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 1月17日

協議会名:西尾市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】  ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄東部交通株式会社	いこまいかー(デマンド型乗合タクシー)	前回の事業評価では目標を達成できたが、利用者に偏りがあったため、地区ごとにいこまいかーを利用した具体的なおでかけ方法の案内やパンフレットの配布等により利用促進を図った。	A 計画どおり適切に実施された。	いこまいかーの年間利用者数により目標値を設定。補助対象系統について目標値を達成することができたが、特定の方に利用が偏っており、全体利用者数では達成できなかった。 【補助対象系統】 (目標)646人(実績)975人 【実績利用者数】 (目標)1,411人(実績)1,155人	引き続き高齢者等の少人数の会合に出向き、一人一人の日常生活での具体的な利用場面等を例示しながら効果的な周知を行い、潜在的利用者の掘り起こしを進める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年 1月17日

協議会名:	西尾市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	総合計画等の上位関連計画における将来都市像、施策の方向性を踏まえ、名鉄西尾・蒲郡線、渡船、バス(路線バス、ふれんどバス、六万石くるりんバス)、いこまいかー(デマンド型乗合タクシー)、タクシーが相互に連携することによって、市民の暮らしを支えるとともに、地域間の交流と活性化を担う。 将来像として、「日常生活に必要な公共交通が効果的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち」をめざす。